

安倍晋三元首相襲撃事件をきっかけに、旧統一教会（世界平和統一家庭連合）と自民党との根深い関係が次々と明らかにになっている。

自民党は今年九月八日、当所属国会議員一七九人に何らかの接点があったとし、うち二一人の氏名を公表。道内選出議員も六人が含まれていた。選挙でポランティア支援を受けていたのが船橋利実氏、中村裕之氏で、これに加え、高木宏壽氏、東国幹氏、伊東良孝氏、中川郁子氏は関連団体の会合で挨拶をしたという。

ただ、この調査自体が、衆参議長や発端となった安倍氏などは調査対象外であり、自己申告の極めて中途半端なものだ。関わり具合も、わずかに八項目の選択肢に限定され、自由記述もなく、例えば議員秘書の受け入れや便宜供与などがあつたとしても明示できない。実態の解明どころか、むしろ隠蔽の意図が見え隠れする。

◇ ◇

この危機感のなごの根源は何か。その一端を覗かせたのが、九月六日に旭川市で、自民党・林祐作道議会議員の道政報告会での一幕だ。九月七日のH T Bの報道によると、林道議の後援会長が「統一教会の会員の皆さんだつて、日本国民であり道民であり市民。そして別に詐欺をしているわけでもない。国民として一票を持っている。国民の皆さん、政治家が一票お願いしますと

## 旧統一教会、「問題わからない」の傲慢

いつて何が悪い。本当に魔女狩りじゃあるまいし、わけわからん時代だ」。さらに、これに国会議員が呼応した。船橋参院議員は「いい後援会長さんがいて、林さんよかつたね。我々政治家は言えないことがたくさんあります。それを代わりに言ってくれ人が身近にいるつてのが、こんなにありがたいこと」。

そもそも、福田達夫総務会長（当時）が七月二九日の記者会見で「何が問題か僕はよくわからない」と発言している。即日釈明したが、根本的な「何が問題かわからない」という「政治家が言えない」本音は、変わらず自民関係者が抱えているのかもしれない。ずさんで、隠蔽の意図すら感じること調査方法の理由も、そこから察することができる。

いうまでもなく、統一教会は不法・違法行為が何度も最高裁で確定している団体だ。例を挙げれば二〇〇一年六月の札幌地裁判決（のち最高裁確定）で「統一教会であることを意図的に否定する積極的な欺罔行為は、伝道の方法としては許容し難い不公正な方法」、「勧誘は財産の収奪と無償の労役提供という不当な目的で組織的・体系的に行われ、信仰の自由を侵害する恐れのある違法な行為」であるとしている。

特定の教義や信仰について、間違っているか正しいかは裁判所も判断できないが、外形的に法に触れる行為や反社会的行為が

あれば、制裁を受ける。旧統一教会は反社会的な団体であり、その団体と政治家が関わりがあれば、指摘し批判することは当然のことだ。

◇ ◇

「何が悪いのかわからない」と言うならば、わかるうとしてほしい。旧統一教会問題は多くの識者・報道機関が解説し、世論もおおむね説明不足を指摘している。その内容に耳を傾けてほしい。なぜ、そんな当たり前のことを要求するかと言えば、自民党の議員・関係者からは自身と異なる意見を聞くことを拒絶し、見下す傲慢な発言があまりにも多いからだ。

直近では安倍氏国葬を巡り、反対世論が日増しに高まるなか、道見泰憲道議は八月二八日にSNSに「国葬に反対する方々（中略）だからもう黙つてろ」と投稿した。批判を受けても「思想信条に基づくもの」として撤回を拒否した。異なる意見や自身への批判に対し「黙つてろ」と恫喝し耳を塞ぐ、言論を司る議員とは思えない象徴的な姿勢だ。同様の言論は挙げれば切りがない。「何が問題かわからない」とどこか斜に構えた発言も、批判に耳を傾けた上で出た言葉なのか疑わしい。

旧統一教会との関係に関して、報道も世論も、まだまだ黙るつもりはない。わからないのなら、わかる努力をしてほしい。

△限▽